

ディケンズ・フェロウシップ日本支部春季大会

日時 2005年6月11日(土) 13:50より

会場 名古屋大学文系総合館(7階カンファレンス・ホール)

〒464-8601 名古屋市千種区不老町名古屋大学

* JR名古屋駅から地下鉄東山線(藤が丘行き)に乗り、本山駅で名城線(八事・新瑞橋方面)に乗り換え、名古屋大学駅で下車。

プログラム

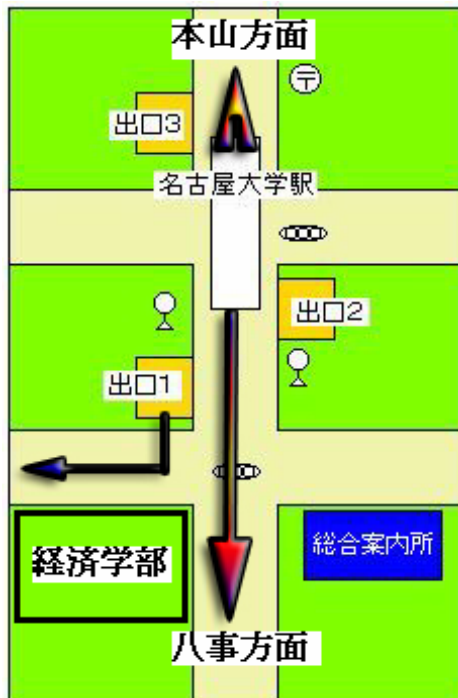
- 1 開会の挨拶 (13:50~14:10) 日本支部長 西條 隆雄
- 2 講演 1 (14:10~15:00) 司会 荻野 昌利(南山大学名誉教授)
佐々木 徹(京都大学)「ディケンズを聴く」
ディケンズの同時代の少なからぬ読者は、家庭の炉端で、あるいはパブの煙草の煙の中で、彼の小説を耳から受け入れました。ディケンズ自身による朗読で作品に接することもありました。今の時代にこれを再体験するのはもちろん不可能です。しかし、ディケンズの小説を朗読したテープやCDがその代用品にならないわけではありません。この種の朗読の面白さについて、そして、能うならば、「ディケンズを聴く」ことによって得られる特別なディケンズ理解について、お話し出来ればと思います。
- 3 講演 2 (15:00~16:00) 司会 松岡 光治(名古屋大学)
片木 篤(名古屋大学)「橋から見たロンドンの近代化」
ディケンズは鋳山(ヤマ)のテクノロジー - 蒸気機関、鉄道、ガス等 - によって都市(マチ)が近代化された時代を生き、その変貌を作品に活写している。元々礼拝堂、市門、住居を擁する生活空間であった橋もまた、純粋な交通空間として鉄で作られるようになった。ここでは、橋のテクノロジーとデザインの革新に焦点を当て、そこからテムズ河に架かる橋、ひいては帝都ロンドンの変貌を眺め直すこととする。
- 4 講演 3 (16:20~17:50) 司会 西條 隆雄(甲南大学)
Alan Dilnot (Monash University), "Dickens and Australia," followed by a reading of "Sikes and Nancy."
In his three earliest novels, *Pickwick Papers*, *Oliver Twist* and *Nicholas Nickleby*, Dickens comes close to beginning an Australian story for certain of his characters, but in each case he chooses not to continue the account. In *David Copperfield* "Australia" has become a more complex notion, and several characters find their lives developing significantly in Australia. Yet their views of themselves in Australia are still seen in terms of their experiences in Britain. *Great Expectations* shows a reversion by Dickens to a position close to that held in the early novels. Thus, while in his non-fiction Dickens frequently encouraged readers to recommence the stories of their lives in Australia, in his fiction such stories are never unfolded, and Australia is seen in not much more detail than the China of *Little Dorrit* and the Cape of *Our Mutual Friend*. It is certainly far from matching the America of *Martin Chuzzlewit*, and this indicates how much was lost to literature when Dickens turned down the offer of Messrs Spiers and Pond to bring him on a reading tour of Australia.

5 懇親会 (18:00 ~ 20:00)

大会会場 (キャンパスマップ 62 番) の南側、アメニティーハウス (70 番) の一階にある「フレンドリィ南部」で開催します。奮って御参加ください。

会費 6,000 円 出欠の返事を同封の葉書で 5 月 27 日 (金) までにお知らせください。

- * 会員以外の方も自由に御来聴ください。
- * 大会の日は愛知万博の期間中ですので、ホテルの予約はお早めに。



(連絡先) 〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院国際言語文化研究科
松岡光治
mitsu@lang.nagoya-u.ac.jp
大学 : 052-789-4864 / 自宅 : 052-721-8864

地下鉄を御利用の皆様へ

JR 名古屋駅を桜通口 (金の時計側) から出ると、左前方に地下鉄東山線への下り階段 (テルミナ商店街入口) があります。http://www.meieki.com/meieki_1f.php

東山線 (藤が丘行き) では 8 つ目の本山駅で名城線右回り (八事・新瑞橋方面) に乗り換え、1 つ目の名古屋大学駅で下車してください。

名古屋大学駅では 1 番出口から出て、すぐ右折すると、左手に経済学部の建物 (12) があります。この建物を過ぎて、すぐ左手の奥まった所に 7 階建ての文系総合館 (62) があり、大会会場は 7 階のカンファレンスホールです。

